

2022年度

生産システム研究部会

変化に追従する生産システムの構築
～リードタイム短縮の追求～

1 生産物流研究部会

2 生産システム研究部会

3 モノづくり人材育成研究部会

4 モノづくり競争力研究部会

5 生産現場改善研究部会

6 葦クラブ研究部会

2022年7月19日(火)



2023年3月10日(金)

(全6例会)

登録メンバー特典

2023年1月24日(火) 現場長のための問題解決力セミナー

2022年度 生産システム研究部会

市場ニーズに合わせて生産量が変動する中、それに対応していくためには、自社に最適な生産システムを構築し、変化への対応力を高めていかなければなりません。そこで、リードタイム短縮を基軸として、フレキシブルな生産体制を作り上げ競争力を高めている事例や、IoTやAIを活用して生産性を向上させている事例の研究を通して、ムダのないシンプルでスリムなモノづくりについて考察します。

皆様のご参加・ご登録をお待ち申し上げております。

年間テーマ

変化に追従する生産システムの構築

～ リードタイム短縮の追求 ～

第1例会

と き	2022年7月19日（火）・20日（水） 13:30～17:00	【主な生産品目】
ところ	パナソニック スイッチギアシステムズ(株) 瀬戸工場（愛知県尾張旭市）	住宅分電盤、電設盤、ブレーカ、 タイムスイッチ、計測機器

「3つの工場革新による生産性向上」

～ 生産自動化・IT化・需要連動生産体制の構築 ～

パナソニック スイッチギアシステムズ(株) 取締役（兼）製造部部长 松浦 佳紀 氏

パナソニック スイッチギアシステムズ(株)では、ブレーカ・配電盤を生産している。同社工場では、主に3つの工場革新に取り組んでいる。1つ目は大量生産が可能な住宅用ブレーカにおける一貫生産である。完全自動化により、製造リードタイムの短縮を実現している。2つ目は、需要連動型生産体制をとることで、住宅用分電盤の多品種少量生産と短納期化を実現している。3つ目は、組立工程におけるIT活用による効率化である。ITによる支援で、ピッキング・組立・検査のミスを防いだり、作業を効率的に行えるようになった。それらの取り組みについて伺います。

第2例会

と き	2022年 9月16日（金） 13:30～17:00	【主な生産品目】
ところ	(株)ジェイテクト 刈谷工場（愛知県刈谷市）	工作機械

「ITと共存し根付く進化したモノづくり現場」

～ 一元化情報を管理できる生産体制 ～

(株)ジェイテクト 刈谷工場製造部部长 井口 宏文 氏

(株)ジェイテクトではスマートフォンを核とするシステムを開発。工作機械の生産拠点である刈谷工場では、出荷前製品の顧客による確認作業や職場改善、安全点検の専用アプリケーションを導入して、情報共有を行っている。また、部品加工から塗装、組み立てまで分散していた各工程を最短にできるように製品別に再編する整流化を2018年度より行っている。併せて、加工における前後工程の進捗見える化による生産性向上、組立における徹底したモジュール化と自工程完結による不良ゼロへの取り組みを展開している。それらの取り組みについて伺います。

第3例会

と き	2022年10月25日（火） 13:30～17:00	【主な生産品目】
ところ	コマツ 大阪工場（大阪府枚方市）	ブルドーザー、油圧ショベル、 環境リサイクル機械

「Kom-mics によるつながる工場の実現」

～ 工場見える化と生産プロセス改善 ～

コマツ 生産本部生産技術開発センタ システムグループ生産システムチームチーム長 足立 貴嗣 氏

ブルドーザー、油圧ショベルを生産するコマツ。同社大阪工場は、海外11工場のマザー工場である。現在、同社では自動化による生産性向上を目的に“つながる工場”を目指している。その仕組みがKom-micsである。社内だけでなく、企業間の情報の見える化・つながる化を図り、生産実績管理を通じて生産計画にフィードバックして生産指示をすることで、サプライチェーン全体の最適化を進める。本仕組みを活用することにより、同社や海外生産工場、協力会社にてリアルタイムでの改善が可能になっている。それらの取り組みについて伺います。

■ 当部会の企画・運営におけるご協力をお願いしております。（順不同）

運営幹事

(株) ア イ シ ン	設 備 工 機 部 企 画 ・ 開 発 室 主 査	狭 間 猛 氏
新 東 工 業 (株)	ものづくり本部 NPS 推進グループマネージャー	坂 田 大 輔 氏
住 友 電 装 (株)	ハーネス生産本部GPPCプロセスエンジニアリング部部长	由 利 英 隆 氏
ヤマザキマザック(株)	生産技術部改善革新課主幹	大 澤 成 樹 氏
リ ン ナ イ (株)	生産技術本部生産技術開発部次長	大 島 直 樹 氏

基本運営スケジュール 13:30～17:00

- ①会社概要説明・テーマのプレゼンテーション ②工場（現場）見学 ③グループディスカッション ④発表・質疑応答
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当日の運営方法が変更となる場合がございます。

第4例会

と き	2022年12月 7日（水） 13:30～17:00	【主な生産品目】 プロセスチーズ
と ころ	六甲バター(株) 神戸工場（兵庫県神戸市）	

「搬送や検査自動化による生産性向上と働きがいのある工場に向けて」

～ ベビーズ製造の検査精度向上と省人化の実現 ～

六甲バター(株) 神戸稲美生産部 小泉 忠 氏

プロセスチーズなど「Q・B・B」ブランドで知られる六甲バター。今後、製造の中核的役割を担う新工場「神戸工場」を新設、年間生産能力は従来の主力工場の50%増である。同工場は、工場内の搬送や検査の自動化システムを整備。工程の自動化には、製造現場の作業情報を収集する製造実行システムを活用し、生産計画に基づき原料の入出庫や搬送指示を自動的に行う。また検査工程では、大量のデータを元に画像からAIが不良を判定することで検査精度の向上や省人化につなげている。それらの取り組みについて伺いする。

第5例会

と き	2023年 2月 7日（火） 13:30～17:00	【主な生産品目】 複写機等の事務用機械器具 及びそれらの部品、金型、治具等
と ころ	コニカミノルタメカトロニクス(株) 本社（DMC-MIKAWA）（愛知県豊川市）	

「『現場力とデジタル化の融合』による新たなモノづくりへの挑戦」

～ 技術発信拠点として取り組んでいる現場力強化と生産DX ～

コニカミノルタメカトロニクス(株) 代表取締役社長 杉原 誠 氏

コニカミノルタ(株)ではモノづくり革新の取り組みとして、デジタル技術を活用した独自の生産DXを推進。国内のモデル工場として、三河に新生産拠点を立ち上げた。生産DXの取り組みでは、現場力とデジタルマニュファクチャリング構想を掛け合わせ、まずは現場課題のなぜなぜ分析を行い、その中でデータを活用していくことで、イレギュラーの生産停止要因の把握や、不具合の予測や未然防止など、様々な視点から取り組むことができ、現場に活きる改革が出来ると考えている。コニカミノルタメカトロニクス(株)では、その技術発信拠点として実際に活動している様々な取り組みについて伺いする。

第6例会

と き	2023年 3月10日（金） 13:30～17:00	【主な生産品目】 乗用車用・小型トラック用・ レース・ラリー用・二輪用タイヤ
と ころ	住友ゴム工業(株) 名古屋工場（愛知県豊田市）	

「タイヤ生産におけるAI/IoT技術の活用」

～ 高品質・高効率な生産の実現 ～

住友ゴム工業(株) 製造IoT推進室室長 伊都 剛 氏

住友ゴム工業(株) 名古屋工場では「ダンロップ」「ファルケン」をはじめとした乗用車などのタイヤを生産している。同社ではAIやIoTを活用した情報収集・分析基盤として“IoTプラットフォーム”を構築中。生産性、品質を中心に現場のムダ排除やバラつき低減を進め、高品質かつ高効率なタイヤ生産実現を目指している。今回は、モデル工場である同工場の取り組みについて伺いする。

開 催 要 領

参加対象

IE、生産技術、生産管理、製造部門の方 等

運営方法

- ①新型コロナウイルスの感染拡大状況、講師の都合などの事情により、日程・時間・内容並びに開催形態の変更、参加の制限をさせていただく場合がございます。愛知県、または例会開催県に「緊急事態宣言」が発令されている場合は、開催形態の変更、または延期とさせていただきます。愛知県、または例会開催県に「まん延防止重点措置」が発令されている場合は、受入先と相談の上、開催させていただく場合がございます。
- ②新型コロナウイルス感染予防対策として、事務局・講師・参加者の体温測定や手指消毒、換気、座席の間隔確保、机の消毒等を実施しております。詳細につきましては、ホームページ(<https://www.cpc.or.jp/ie/>)をご覧ください。
- ③集合場所・時間等の詳細案内を開催の約1カ月前に登録メンバーへEメールにてご案内しますので、都度、ご出欠をご返信ください。なお、同じ組織であれば、登録者以外(代理)の方の参加も可能です。
- ④各例会とも指定の集合場所・時間に各自でご集合下さい。**現地集合・現地解散**
- ⑤視察先の都合により、同業者の方々のご参加をお断りする場合があります。
その際は、他の例会への振替参加(+1名)をご案内いたします。
- ⑥各例会とも、録音・写真撮影はご遠慮願います。
- ⑦年間の運営ガイダンスは第1例会の際に行います。

年間登録費

中部IE協会会員	91,300円	〔1名につき、 資料代・消費税 10%を含む〕
一般	129,800円	

- ①年間登録費については、申込受付の後、請求書を送付させていただきますので、請求書に記載の期日までに、下記の指定銀行へお振り込み願います。
なお、**銀行へ支払う振込手数料につきましては、お客様のご負担**となりますので、ご了承ください。
- ②年間登録費は下記口座へ直接お振込みいただいても結構ですが、その際は申込書に振込日をご記入いただき、請求書不要の欄にチェック☑を付けてください。

口座名義：中部インダストリアル・エンジニアリング協会 振込銀行 口座番号(順不同)

三菱UFJ銀行鶴舞支店	普通	No. 1602917	名古屋銀行上前津支店	当座	No. 3116141
愛知銀行本店営業部	当座	No. 2678	りそな銀行名古屋支店	当座	No. 494070

- ③7月13日(水)以降の参加取り消しにつきましては、年間登録費の返金を致しかねます。
(ご登録者の変更をお願いいたします)

申込締切日

2022年7月12日(火)

登録申込書に必要事項をご記入の上、FAX 又は 郵送にてご送付願います。
(締切日を過ぎる場合は予めご連絡下さい)

メンバー特典

当研究部会の登録特典として、1名に限り、下記のセミナーへ**会員価格の半額**でご参加いただけます。
詳細は、個別案内状をご送付申し上げますので、是非ご参加下さい。

2023年 1月24日(火) 現場長のための問題解決力セミナー(28,600円→14,300円 消費税含む)

※ 個人情報の取り扱いについて

1. 参加申込によりご提供いただいた個人情報は、当協会の個人情報保護方針に基づき、安全に管理し、保護の徹底に努めます。
なお、当協会個人情報保護方針の内容については、当協会ホームページ(<https://www.cpc.or.jp/ie/>)をご参照願います。
参加されるご本人、ご連絡担当者の皆様におかれましては、内容をご確認、ご理解の上、お申しいただきますようお願いいたします。
2. お申し込みをいただいた方へは各種セミナーのご案内をお送りする場合がございます。
3. 個人情報の開示、訂正、削除については、以下の窓口までお問合せください。
4. 本案内記載事項の無断転載をお断りします。 【個人情報に関する問い合わせ窓口 担当：齋藤 TEL052-221-1261】

お申込み・問合わせ先

中部インダストリアル・エンジニアリング(IE)協会

〒460-0003 名古屋市中区錦2-15-15 (豊島ビル11階)

TEL 052-221-1261 FAX 052-221-1265

<https://www.cpc.or.jp/ie/> 担当：村田・吉村

●中部IE協会 ホームページからもお申し込みいただけます！

中部IE協会

検索

2022. 4. 11

2022年度 生産システム研究部会 [第2部会] 登録申込書

<フリガナ>

会 社 名

下記の通り登録申込みいたします。(昨年度登録申込みされている場合はこの申込書の送付は不要です。)

1	氏 名	フリガナ	所属部署 役 職 名	
	住 所	〒	T E L	() -
			F A X	() -
	E-mail			
2	氏 名	フリガナ	所属部署 役 職 名	
	住 所	〒	T E L	() -
			F A X	() -
	E-mail			
3	氏 名	フリガナ	所属部署 役 職 名	
	住 所	〒	T E L	() -
			F A X	() -
	E-mail			
4	氏 名	フリガナ	所属部署 役 職 名	
	住 所	〒	T E L	() -
			F A X	() -
	E-mail			

※ E-mail にて例会案内をお送りいたしますので必ずメールアドレスのご記入をお願いいたします。

☐ 請求書 **要** 申込み後の受取請求書にて振込み☐ 請求書 **不要** 指定口座へ直接振込み

[振込み予定日をご記入下さい 月 日()]

※上記いずれかに☑をおつけ下さい。

※請求書は上記 **1** の方宛に送付させていただきます。

(91,300円・129,800円) [消費税含む] × 口 = 円

(事務局記入)

請求

No.202022

第1部

会

生産物流研究部会

物流効率化による生産性向上 ～ムダを省いた物流システムの構築～

モノと情報の流れをスムーズにすることで、ネックと停滞の部分を見える化し、IoTを活用した物流システムの自動化や物流作業の効率化などの改善を加えることで、物流全体のリードタイム短縮につなげている事例ならびに現場訪問を通して、モノづくりにおける最適物流について考察する。

第2部会

生産システム研究部会

変化に追従する生産システムの構築 ～リードタイム短縮の追求～

リードタイム短縮を基軸として、フレキシブルな生産体制を作り上げ競争力を高めている事例や、IoTやAIを活用して生産性を向上させている事例の現場訪問を通して、ムダのないシンプルでスリムなモノづくりについて考察する。

第3部会

モノづくり人材育成研究部会

日本のモノづくりを支える人材の育成 ～令和時代の人づくり戦略～

モノづくりの技能、生産技術、製造技術等、モノづくり現場で必要となる様々な要素について、計画的かつ組織的に次世代へ伝承・育成している事例ならびに現場訪問を通して、今、取り組むべきモノづくり人材の育成について考察する。

第4部会

モノづくり競争力研究部会

自社の強みを磨き、競争力を極めるモノづくり ～成長に向けた新たな挑戦～

自社の強みを見極め、これまで培ってきた現場力・開発力・技術力・品質力をさらにレベルアップさせながら、成長に向けて新たな挑戦を続ける事例ならびに現場訪問を通して、競争力の本質について考察する。

第5部会

生産現場改善研究部会

地道な改善活動こそが作りあげる強い現場 ～知恵は無限、改善は永遠～

徹底的なムダ排除に向け、こだわりを持って改善活動を実践している、業種業態の異なる生産現場の事例ならびに現場訪問を通して、改善の着眼点・発想法のポイントを掴み、これからの現場力の強化について考察する。

第6部会

葦クラブ研究部会

日本のモノづくり 新たなステージに向けて ～人間は考える葦 現場のニーズは足で掴む～

第一線で飽くなき挑戦を続ける方々から、その熱き想いと最新の事例を何う事を通じ、責任者としての幅広い知識を収集し、モノづくりに係わる経営者の人間観、経営観の研鑽をはかるとともに、会員企業とのネットワークも広げる。